

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ケニア共和国ガリッサ県の小学校児童が、小学校への水衛生設備設置および衛生教育を通して、衛生的な環境のもとで学校教育を受けられるようになる。
(2) 事業内容	(ア) 給水設備の設置 ガリッサ郡教育局と覚書を締結し、支援対象校である Shabah Primary School (以下 Shabah 校) と Jarirot Primary School (以下 Jarirot 校) 2 校の校長および PTA 代表を含めた地域住民へ事業内容を説明し、事業に対する理解を得るとともに、円滑な実施への協力を取り付けた。また掘削および給水設備建設業者との契約を締結した。 地質専門家による調査結果を元に、各校の校長、住民代表と協議し、複数の掘削候補地の中から十分な水量が得られる可能性が高いと思われる掘削場所を選定した。 Shabah 校では、2 月 28 日に掘削を終え、井戸の洗浄、揚水試験を実施し、水質検査に使用する水のサンプルを採取した。水質検査の結果、ケニア政府が定める飲料水としての基準値を上回るフッ素などの物質が検出された。しかし、水行政官や水処理に詳しい専門家などへの聞き取りから、3 日ほどの継続揚水により、井戸の水質が改善した事例があることが判明した。そこで3日間の継続揚水を実施したのちに再度水質検査を実施したところ、フッ素値が下がりケニア政府の基準を満たす水質に改善されたため、給水設備の建設工事を開始した。現在資機材の搬入ならびに給水塔基礎工事および水場の設置を進めている。 Jarirot 校も同様に、3 月 6 日に掘削を終え、井戸の洗浄、揚水試験後、水のサンプルを採取した。水質検査の結果、とりわけナトリウム、塩化物、フッ素値が、ケニア政府が規定する基準値を大きく上回る結果となった。Shabah 校と同様に、3 日間の継続揚水を経て再度水質検査を実施したところ、継続揚水前に実施した水質検査時よりも水質は改善されたものの、基準値を上回るナトリウム、塩化物、フッ素が検出された。これらの物質は細菌とは異なり煮沸処理などを用いて各世帯で除去できない物質であり、除去のためには逆浸透装置を使用すること以外に方法がない。同装置の稼働には出力の安定した電力が必要であり、また技術者による定期的なフィルター交換などの維持管理を要することから関係機関と協議した上で導入は難しいと判断した。また過剰なフッ素摂取は人体に有害であり、殊に発育期の子どもへの影響があることも踏まえ、北部水公社、水資源管理局、水行政官、住民代表らとの協議の結果、同井戸は利用しないこととした。現在、同地域の地質に詳しい地質専門家および関係機関と協議し、再掘削に向けて調整している。再掘削を行うことにより、事業内容および経費配分の変更が生じるため、変更内容について在ケニア日本国大使館と協議している。 両村における継続揚水および水質検査の再実施、Jarirot 校におけ

	る再掘削に伴う調整のため、給水設備の建設工事に遅れが生じている。 (イ) 児童数に対して不足しているトイレの建設 Shabah 校の井戸に含まれるフッ素等が定められた基準を満たしたため、学校長および PTA 代表と協議し、トイレの設置場所や各トイレの配置を確定させ、建設業者と契約を締結した。 Jarirot 校では、掘削した井戸の水が飲用として適さない水質であったため、再掘削を検討している。再掘削井戸の水質が飲料水基準を満たすことを確認次第、同校での支援実施を確定させるため、現在トイレの建設工事を保留している。状況が整い次第建設工事を円滑にすすめられるよう、学校長や PTA 代表、またトイレ建設業者との調整をすでに始めており、学校敷地内でのトイレの設置場所や各トイレ個室の配置、仕様についてはほぼ確定している状態である。 (ウ) 衛生教育および給水設備の維持管理に関する研修 Shabah 校については、水灌漑省、郡教育長、水資源管理局から「トレーナーのためのトレーニング (TOT: Training of Trainer)」に関する資料提供を受け研修教材を作成するとともに研修カリキュラムを策定した。学校長、PTA 代表および郡教育長と協議し、4 月 29 日から 5 日間の日程で、衛生教育および給水設備維持管理研修を実施した。 Jarirot 校では、上述の通り再掘削井戸の水質が飲料水基準を満たすことを確認次第、同校での支援実施を確定させるため、同校での研修実施を延期した。
(3) 達成された効果	(ア) 給水設備の設置 ガリッサ郡教育局と覚書を締結し、井戸掘削業者との契約を締結した。Shabah 校における井戸の掘削が完了し、水中ポンプおよびソーラーパネル枚数など給水設備の仕様を確定させ、給水設備の建設を開始した。Jarirot 校においては掘削が完了したが、同井戸の水質が飲料水基準を満たさなかったことから再掘削に向け調整している。 (イ) 児童数に対して不足しているトイレの建設 支援対象校 2 校において、学校長、PTA 代表、住民代表とトイレ設置場所を選定した。建設コンサルタントおよび建設業者と協議し、トイレ仕様を確定させ、建設業者と契約を締結した。Jarirot 校においては、再掘削に向けた調整を継続しているため、業者との契約締結ならびに建設工事の開始を延期している。 (ウ) 衛生教育および給水設備の維持管理に関する研修 水灌漑省、郡教育長、水資源管理局から TOT に関する資料提供を受け、研修教材を作成するとともにカリキュラムを策定した。Shabah 校では、4 月 29 日から 5 日間、同校の教員 2 名および PTA メンバー 10 名に対し衛生教育および維持管理に関する TOT を実施した。

	Jarirot 校では、再掘削を要する状況であることから、本報告期間中の研修実施は見送った。
(4) 今後の見通し	(ア) 給水設備の設置 Shabah 校の給水設備は6月上旬の工事完了を予定している。Jarirot 校では、5月上旬に再掘削地の地質調査を実施し、同月中の掘削完了を予定している。掘削後に水質検査を実施し、ケニア政府が定める水質基準を満たす場合、6月中旬から給水設備建設工事を開始し8月上旬に施工を完了する予定である。 (イ) 児童数に対して不足しているトイレの建設 Shabah 校では、5月中旬からトイレ建設を開始し7月中旬の完成を予定している。トイレ建設完了後、手洗い設備の設置を予定している。Jarirot 校では、再掘削後、水質に問題ないことを確認次第、トイレの建設工事を開始する予定である。トイレの立杭掘削から上部構造完成までおよそ2ヵ月の工期を見込んでいる。 (ウ) 衛生教育および給水設備の維持管理に関する研修 Shabah 校では、6月下旬から7月中旬にかけて、同校の児童および保護者に対して TOT 受講者による衛生研修実施を予定している。Jarirot 校では、再掘削後、水質に問題がないことが確認され次第、研修実施を予定している。